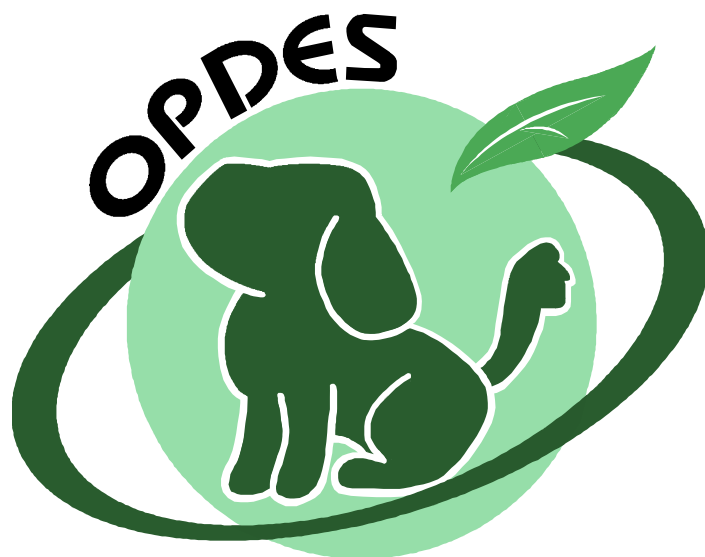


OPDES 犬の社会化認定試験
(チームテスト)

規定&審査表



2020年1月31日 改正

OPDES 犬の社会化認定試験(チームテスト)規定

全般的な規約

「チーム」とは飼い主と犬を意味します。「犬の飼い主と一緒に暮らすその犬に教育を行うこと」が目的であるこの試験には、OPDESの理念である「命 ある全ての犬に教育を」に基づき、血統書のあるなしに関わらず全ての犬が受験できます。ただし、未成熟な生後12か月未満の犬、妊娠中の犬、病気や怪我をしている犬は受験できません。生年月日がはっきりしない犬はその飼い主が生年月日を決定します。1年以内に狂犬病ワクチンを接種している必要があります。発情しているメス犬は受験番号が一番最後になります。

試験はオビディエンステスト(Aセクション)と実社会での犬の態度と行動テスト(Bセクション)と、飼い主による筆記テストの3部門で構成されています。Aセクションは準備された30m×40m以上のグラウンドや芝地で行い、Bセクションは実際に道路や各施設で行われます。Aセクションで35点以上を得なければ、Bセクションは受験できません。Aセクションの試験中、排便、排尿をした場合は5点減点となります。

全試験中、あるいは試験会場(駐車場など、その近辺も含む)において、犬の社会化認定試験に参加する者として相応しくない行動(犬の排便をそのままにしておく、犬に対する体罰、他の犬に噛み付く等)をハンドラーあるいは受験犬が行ったことを審査員が確認した場合、その犬の試験は中止され不合格となります。審査員が試験中、続行不能と判断した場合もその時点で試験は中止されて不合格となります。犬の各動作はハンドラーの声による指示だけで行われることが理想です。ただし、身体的にそのことが困難なハンドラーや、犬に身体的な障害がある場合(耳が聞こえないなど)に、手による指示を使ったり、場合によっては犬を右側に置いてハンドリングすることは構いません。(この場合は事前に審査員に申告してください。)

Aセクションの各課目は全て審査員の合図で開始します。次に行う課目を忘れて審査員に尋ねることや、課目の内容を審査員に指示してもらうように前もって頼むことは問題ありません。1つの課目を終了して、次の課目を始める前に犬をさわって誉めることはかまいません。規定に明記されていないことに関しては審査員が判断します。審査終了後は直ちに審査員から講評がなされ、評価に基づく得点と合否が発表されます。Bセクションは点数による審査ではなく犬の態度と行動により課題ごとに「信頼できる」、または「信頼できない」と評価されます。合格となるには、Aセクションで35点以上を獲得し、なおかつBセクションで全て「信頼できる」の評価を得たうえ、ハンドラーは講習を受けた後、筆記試験を行い70%以上の点数を取得しなければなりません。試験で不合格となっても、審査員がその犬の飼育法などが間違っていると見なしたわけではありません。間隔を開けずに再受験することができます。チームテストにはレベル1、レベル2という段階があります。それぞれの有効期限は1年間です。チームテストレベル2を受験するにはチームテストレベル1の有効期限内でなければなりません。1日に受験できるのは、1課目(TT1・TT2)のみです。

チームテストレベル1 (TT1)

Aセクション(オビディエンステスト)50点

*全課目リード付き

1. リード付きで横に付いて歩く 15点 要領図参照

リード付きの犬を伴った2チームが審査員の前に進み出てハンドラーと犬の名前を申告します。受験番号の若いチームが出発点で基本姿勢(ハンドラーは進行方向に立ち、犬は真横で真っ直ぐに座ります)をとり、審査員の合図で要領図の様に歩きだします。(指示は出発時、停止後、歩度の変更時だけ許されます。コーナーや左Uターンなどでは使用できません。群衆は8の字で行進します。)

2. 座って待つ 10点

出発点でハンドラーと犬は基本姿勢をとります。審査員の合図で犬に座って待つための指示を出し、ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。審査員の合図で犬のもとへ戻り、犬の右側に立ちます。

3. 伏せー呼び寄せ 15点

出発点でハンドラーと犬は基本姿勢をとります。審査員の合図で犬に伏せるための指示を出し、リードは犬の横に静かに置きます。(希望すれば伏せさせる前にリードを外してもかまいません。)ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。審査員の合図でハンドラーは犬を呼び寄せます。この時、犬を正面に座らせても、直接左側に座らせてもかまいません。正面に座らせた場合は一呼吸(明確な間)おいてから犬を左側に座らせます。

4. 伏せて待つ 10点

課目3(伏せ-呼び寄せ)を終えたチームは、〈伏せて待つ〉の課目を行う場所へと向かいます。受験するペアの受験番号が後のチームは、〈伏せて待つ〉の課目から始まりますので、リンクに入場して審査員への申告を終えたら、この課目を行う場所へと向かいます。

ハンドラーと犬はハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとり、審査員の合図で犬を伏せさせ、リードは犬の横に静かに置き、振り返ることなく10歩進んで犬に肩を向けて立ち止まります。犬は指定された場所で、ペアのチームが課目1~3を行っている間、伏せの姿勢で待っていなければなりません。審査員が合図したら犬の元へ戻り、伏せている犬の右側に立ち、審査員の合図で犬を座らせます。(ハンドラーは犬を見てもかまわないが、指示を与えた場合は減点されます。)

ペアのチームが課目1.「リード付きで横に付いて歩く」を終える前に3m以上移動した場合、得点は0点となります。

チームテストレベル2 (TT2)

Aセクション(オビディエンステスト)50点

*リードは最初に行う課目の前に外す。全課目終了後に装着する。

1. リードなしで横に付いて歩く 15点 要領図参照

リード付きの犬を伴った2チームが審査員の前に進み出てハンドラーと犬の名前を申告します。受験番号の若いチームが出発点でリードを外して基本姿勢(ハンドラーは進行方向に立ち、犬は真横で真っ直ぐに座ります)をとり、審査員の合図で要領図の通りに歩きます。(指示は出発時、停止後、歩度の変更時だけ許されます。コーナーや左Uターンなどでは使用できません。群衆は8の字で行進します。)

2. 常歩中の座れ 10点

出発点での基本姿勢から、審査員の合図でハンドラーと犬は常歩で歩きます。10~15歩の間で座らせるための指示で犬を座らせます。ハンドラーは、座るための指示を出す時に、歩き続けていても、立ち止まってもかまいません。ハンドラーは振り返ることなくそのまま30歩進んで立ち止まり犬と対面します。審査員の合図で犬のもとへ戻り、犬の右側に立ちます。

3. 常歩中の伏せ一呼び寄せ 15点

この課目は出発点に戻ることなく常歩中の座れを終えた地点での基本姿勢から始まります。(場合によっては出発点に戻ります。)審査員の合図でハンドラーと犬は常歩で歩き出します。10~15歩の間で伏せるための指示で犬を伏せさせます。ハンドラーは伏せるための指示を出す時に、歩き続けていても、立ち止まってもかまいません。ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。審査員の合図でハンドラーは犬を呼び寄せます。この時、犬を正面に座らせても、直接左側に座らせてもかまいません。正面に座らせた場合は一呼吸(明確な間)おいてから犬を左側に座らせます。

4. 伏せて待つ 10点

課目3(伏せ-呼び寄せ)を終えたチームは、〈伏せて待つ〉の課目を行う場所へと向かいます。受験するペアの受験番号が後のチームは、〈伏せて待つ〉の課目から始まりますので、リンクに入場して審査員への申告を終えたら、この課目を行う場所へと向かいます。

ハンドラーと犬は、リードを外してハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとり、審査員の合図で犬を伏せさせ、振り返ることなく20歩進んで犬に肩を向けて立ち止まります。犬は指定された場所で、ペアのチームが課目1~3を行っている間、伏せの姿勢で待っていなければなりません。審査員が合図したら犬の元へ戻り、伏せている犬の右側に立ち、審査員の合図で犬を座らせます。(ハンドラーは犬を見てもかまわないが、指示を与えた場合は減点されます。)

ペアのチームが課目2.「常歩中の座れ」を終える前に3m以上移動した場合、得点は0点となります。

Bセッション実施要領 チームテスト1. 2（共通）

Bセッションは実際に道路や各施設で行われることが原則ですが、やむをえずそれが困難な場合はAセッションの会場、ならびにその近辺で行われます。

Bセッションの審査にふさわしく、それを利用できる場合（犬と共にエレベーターに乗れる。犬同伴OKのレストランがある等）は審査員の判断で3つ課題のいずれかを、それに置き換えることができます。Aセッション終了とともに、そのペア（2頭あるいは3頭）ごとにBセッションを行うか、受験犬のAセッション全終了後に全犬を集めて行われるかは、担当審査員によって決定されます。

過去にTTを受験合格した犬でも毎受験時にBセッションは審査されます。

1. 人との会話中に触られたときの犬の態度と行動

名前を呼ばれたチームは審査員のもとまで行って握手をし、自然な感じで審査員と会話をします。

このとき犬はリードに繋がれた状態で、ハンドラーの側で立っていても、座っていてもかまいません。

審査員が「触ってもいいですか？」と尋ねてから、犬を触ります（頭をなでる程度）。

この時にハンドラーが犬をコントロールしてもかまいません。

もしこの時に犬が審査員に対して問題のある行動を取ればチームテストは不合格となります。

しかし、あらかじめ審査員にその旨を申告し、ハンドラーが犬を十分にコントロールできていて、審査員が問題なく犬に触れることができれば信頼できると評価します。

2. 人混みや道路を歩行したときの犬の態度と行動

試験会場の状況に応じて、道路や人混み、あるいは他の犬のいるところを審査員の指示通りに歩行します。ハンドラーは犬をリードに繋いだ状態で歩きます。この時ハンドラーが犬をコントロールしてもかまいません。犬が人混みや道路を問題なく歩行できれば信頼できると評価します。

3. 犬が待たされているときに他の人が近寄ってきたときの犬の態度と行動

ハンドラーは審査員の指定した場所に犬を繋ぎます。適当な場所がない場合はヘルパーがリードを持ち、ハンドラーは犬から見えない場所に隠れます。この時、ハンドラーは犬に指示を与えておいてもかまいません。犬を連れた見知らぬ人などが、待たされている犬のすぐ側を通過します。犬は落ち着いた態度でハンドラーを待つことができれば信頼できると評価します。

4. 人が食事時の犬の態度と行動

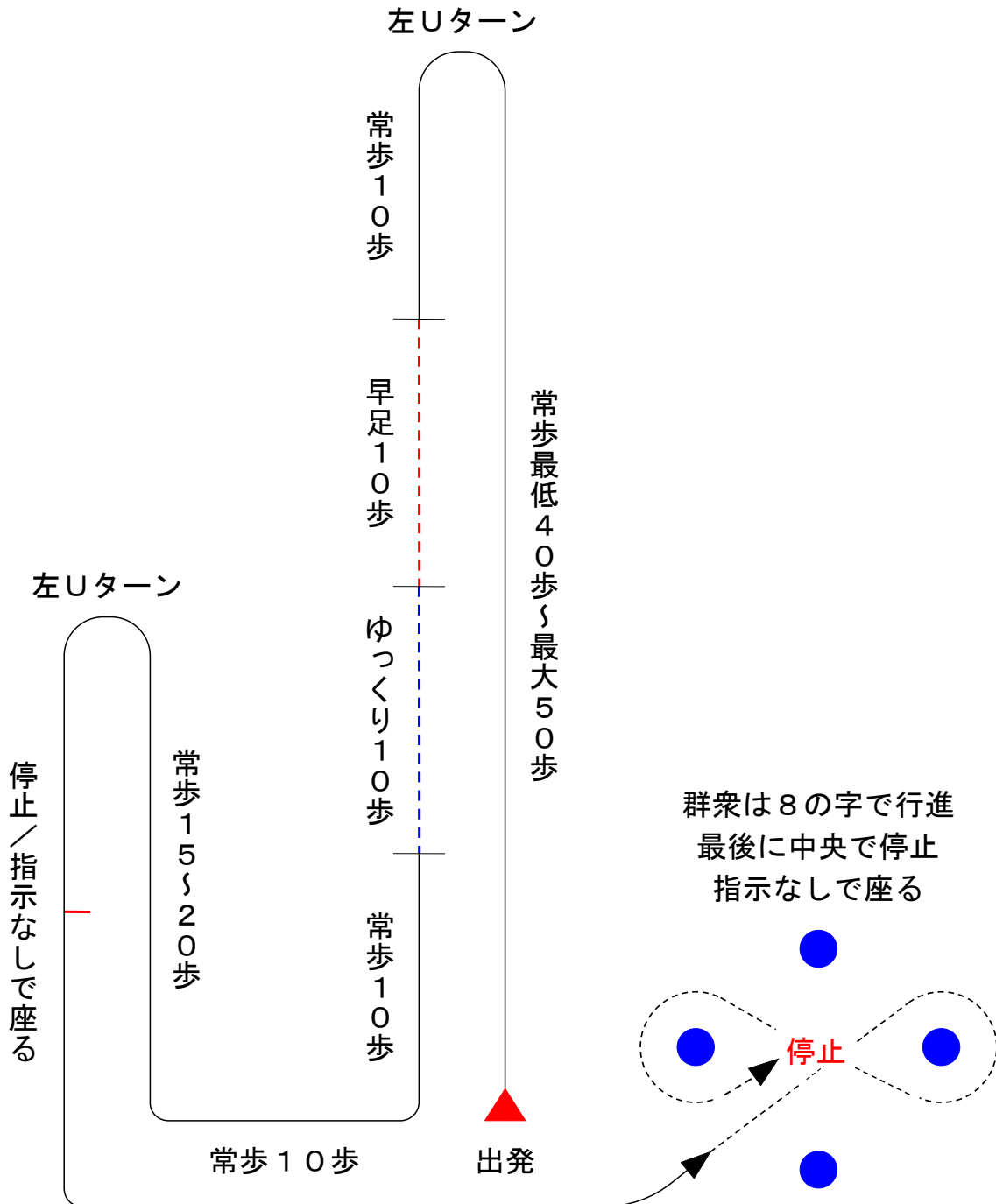
ハンドラーは犬を伴ってテーブルに着席します。犬はハンドラーの足元において、運ばれてきた食事をハンドラーが食べている間、おとなしく待つことができれば信頼できると評価します。

5. 動物病院で診察を受ける時の犬の態度と行動

ハンドラーは犬を診察台に見たてた台の上に乗せます。台の上では犬が立った状態をキープできるようにハンドラーがコントロールします。ハンドラーが犬を十分にコントロールできていて、審査員が問題なく犬に触れることができれば信頼できると評価します。

脚側行進要領図

TT1・TT2 共通



OPDES 犬の社会化認定試験（チームテスト）受験登録申請書

開催日： 年 月 日 会場：

受験クラスに○印をつけて下さい TT1 / TT2 / TT2永久 / 3回目 / 4回目 / ゴールド 申込犬の最新合格日 TT1/TT2 年 月 日 (点) 受験者名 過去に筆記テストを受験して 合格した / 合格したことがない (受験したことがない)				
指導手		会員番号		未入会
住所〒			TEL	
犬名		生年月日		
犬種	性別	牡・牝	外ウ or チップ	
セクションA	配点	評価	得点	短評
TT1 紐付きで横について歩く TT2 紐なしで横について歩く	15			基本姿勢、歩度、方向変換、座れ、群衆内
TT1 座って待つ TT2 常歩中の座れ	10			基本姿勢、脚側行進、座れ、待機、
TT1 伏せ-呼び寄せ TT2 常歩中の伏せ-呼び寄せ	15			基本姿勢、脚側行進、伏せ、待機、招呼スピード、正面&脚側
TT1 伏せて待つ TT2 伏せて待つ	10			基本姿勢、伏せ、待機、伏せ-座れ
合計 (採点は0.5点単位)	50			
セクションB				
1. 人との会話中その人に触れられたときの態度と行動			信頼できる / 信頼できない	
2. 人混みや道路を歩行したときの犬の態度と行動			信頼できる / 信頼できない	
3. 犬が待たされているときに他の人が近寄ってきたときの犬の態度と行動			信頼できる / 信頼できない	
4. 触診・トリミングなどを想定したときの犬の態度と行動			信頼できる / 信頼できない	
5. テーブルマナー			信頼できる / 信頼できない	
6. その他				
総合			信頼できる / 信頼できない	
合格はAセクションで35点以上で、なおかつBセクションが全て信頼できる場合のみ。 さらに指導手が筆記試験において合格となる点数を取得していること。 合格 / 不合格 (筆記試験 点) 審査員署名				